

2021 年度 第 2 四半期 決算説明会 質疑応答要約

Q) 連結子会社のニッセイに対する株式の公開買付けの開始を発表している。どのようなリターンを期待しているのか。

A) ニッセイのビジネスはこれから伸びる省力化・自動化に非常に深く関わる分野。ブラザーグループとして伸ばせるチャンスのある領域である一方で、事業活動拡大に際し、親子上場の状態では少数株主の方への配慮が必要となり、投資や意思決定のスピードに一定の制約がかかっている。完全子会社化を機にその制約を取り払い、ニッセイのビジネスを更に伸ばしていこうと考えている。

Q) コロナ影響で P&H の工場の稼働に影響が出ているとのこと。足元の状況を教えてほしい。

A) P&H の主力工場はベトナムのホーチミン近郊にあるが、11 月によく全面再開の見込み。7 月末からベトナム南部で急激に感染が拡大し、ロックダウンに陥った。従業員は工場に泊まり込んで生産を継続し、徐々に稼働を戻してきたが、減産の影響が 3 ヶ月超あった。想定していた生産ができていないため、需要には追いついていない。

Q) P&S 事業でコロナ再拡大による供給制約が出る可能性は今後もあるのか。

A) ベトナムのハノイ近郊にある工場も一時期ロックダウンをしていた。現在も操業度の低い状況が続いている。コロナの感染拡大は落ち着いてきたものの、部品供給の制約により生産が回復しきらない。フィリピンにあるインクジェットの工場については、コロナ影響は足元では無いものの、部品の調達難で生産に影響が出る可能性がある。

Q) 物流コスト、部材コストについて、下期はどのくらい影響が出るのか。

A) 物流コストについては、航空運賃は上期より下期が少し減ると想定している。海上運賃についてはかなり単価が上がっており、下期の方が大きくコストアップ要因になる。半導体、樹脂材料等のコストアップについては、下期の影響が前年度比でより大きいが見込んでいた販促費・販管費を抑制することで、コストアップ分を打ち返したいと考えている。

Q) プリンティングの消耗品の動きについての市況感を教えてほしい。

A) レーザーは堅調に推移。インクが弱くなっているのは、PV がコロナ前の水準まで戻っていないことに加え、昨年は工場ロックダウンの影響で本体の販売が低調だったため、MIF が減少した影響を受けたと思っている。

Q) 在宅勤務需要の今後の見通しはどうか。

A) オフィスのダウンサイジングや分散化は続いていくため、在宅印刷を含めた「分散印刷」の需要は堅調に推移すると見ている。A4 機の需要は、足元の供給不足の影響も踏まえると、来年度上期まで

は続く見込み。

Q) 産業機器の Q2 の受注について傾向を教えてください。

- A) 産業機器の受注状況については、想定通り、Q1 をピークとし、そこから少し落ちたあとフラットに推移している。昨年度の Q4 から今年度の Q1 にかけては、需要が過熱気味だった。巣ごもり需要の駆け込み受注として、電動工具や IT 関連の受注もあったが、それが落ち着いてきた。
- また、日工会の受注統計を見ると、中国で下落傾向があるが、ブラザーは中国の比率が高いため、その影響が全体に出ていると見ている。この点も想定内であった。

Q) 産業機器について下期以降の見方を教えてください。

- A) 自動車業界では全世界的に生産量が落ちていて、商談も長引く傾向にある。足元からもう少し先においては、ブラザーの注力領域である自動車業界向けの受注が想定よりも落ち込む可能性があると考えている。一方、この落ち込みは需要起因でなく半導体など部品の供給制約起因なので、長い目で見ればこの影響はなくなっていくと思う。

Q) ドミノ事業は Q2 も増収増益。状況を教えてください。

- A) C&M は、食品・医薬品など日用品の生産ラインで使われることから需要も堅調。一方、半導体供給の制約があるので下期を強気に見るのはリスクがあると考えている。

Q) 現中計では、組織能力の強化をすること。この取り組みの 2 年半の成果を教えてください。

- A) 現中期戦略「CS B2021」では、ブラザーの強みを取り戻そうと、小回り力や、コスト対応力、生産性を高めるため、業務の見直し、デジタル化に取り組んだ。コロナ禍では部品の供給制約により、日々生産を継続するための設計変更など、仕事量は増えているのだが、これに短期間で対応できるようになったことは、会社としての力が付いたということだ。基礎力を強くしていくという部分において、大きな成果が出たと感じている。